

■(金地院)以心崇伝 臨濟宗の僧。家康の知恵袋として文書や諸法度の起草に関わり、のち“黒衣の宰相”と呼ばれる。

いしんすうでん

京都宣教許可1569= 生。足利義輝の近臣一色藤長の孫。

室町幕府滅亡1573= 4歳：足利氏滅亡のとき父秀勝に死別し、
京都南禅寺に入って玄圃霊三に師事する。

上杉謙信没・1578= 9歳：
かたわら醍醐三宝院に学び、相国寺の西笑承允にも教えを受け、

本能寺の変・1582=13歳：
のち南禅寺金地院の靖叔徳林についてその法嗣となった。

パテレン追放令 1587=18歳：

秀吉全国統一1590=21歳：

ルツ島通交・1594=25歳：福厳寺の住職となり、

26聖人殉教・1596=27歳：
以後、禅興寺から鎌倉の建長寺の住職を歴任後、

関ヶ原の戦い・1600=31歳：

江戸幕府が発足してまもなく、

徳川家康隠居1605=36歳：建長寺に続いて、南禅寺の住持となり、
金地院に住んで応仁の乱による焼失以来荒廃した伽藍の復興に努めるうち、

家康駿府退隠1607=38歳：
・・・1608=39歳：*徳川家康に招かれ駿府に赴いて面謁し、以降幕府の外交文書の起草に従事。

琉球使始・・・1610=41歳：駿府に金地院を開いて住し、

キリスト教禁止・1612=43歳：板倉勝重とともに諸寺院の取締や訴訟を管掌、家康の命で朝廷・公家・寺院から内外の古典の蒐集を開始
するとともに、“耶蘇教禁止令”“パテレン追放令”の起草を皮切りに、

大坂冬の陣・1614=45歳：く方広寺鐘銘事件を仕組んで豊臣一族の残党をく大坂冬の陣に決起させ、
大坂夏の陣・1615=46歳：く夏の陣の決着後に続々と出された朝廷、寺院、武家などを対象とした諸法度の起草に参画した。

徳川家康没・1616=47歳：*家康の死後は江戸に移り、

・・・1618=49歳：江戸金地院を建立。

菱垣廻船始・1619=50歳：禅宗寺院住持の任免を左右する僧禄に任じられた。

次第に秀忠の側近から遠ざけられるが、

徳川家光将軍1623=54歳：*家光が将軍になって復活、

人身売買禁止1626=57歳：円照本光の国師号を賜る。

紫衣勅許無効1627=58歳：紫衣事件では沢庵らの厳罰を主張。

後世に“黒衣の宰相”と呼ばれ策謀家と受けとられがちであるが、政権の基礎を固めようとしていた家康にとって、その意図を法制に表現するには崇伝の才能は不可欠だった。日記「本光国師日記」、ほかの著作に「本光国師法語」「異国日記」がある。

徳川秀忠没・1632=63歳：

鎖国令 I・・・1633=64歳：没した。